



# ニュースレター

## 第49号

NPO法人 日本リハビリテーション看護学会

事務局案内

住 所 〒162-0825  
 東京都新宿区神楽坂4-1オザワビル2F  
 株式会社ワールドプランニング内  
 NPO法人 日本リハビリテーション看護学会  
 事務センター  
 電話番号 03(5206)7431 FAX 03(5206)7757  
 E-mail jrna@worldpl.jp



春 水仙峡



## 日本リハビリテーション看護学会のこれから

理事長 栗生田友子

本学会は、2018年に設立30周年を迎えました。平成の時代を終え新たな元号の幕開けのこの時代の流れとともに、新たな創造的な活動に向かって踏み出す、そんな時代に入っていく年を学会員の皆様とともに迎えることができましたことを嬉しく思っております。

さて、今年2月には早々と臨時総会を開催させて頂きました。皆様にはたくさんのご意見を頂きました。その総会を皮切りに、今年度は学会に大きな変革が生じていきます。臨時総会で可決されました事案は、事務局の移転と業務委託の開始に関する事、それに伴う予算案の再編に関する事でした。これは、14年間、さまざまな事務業務を担っていただいた落合由香理氏の定年に伴うものでしたが、同時に数年続いていた赤字決算の解消を図ることも提案いたしました。可決させて頂きましてありがとうございました。

さて、事務局体制の整備を契機に、学会はいくつかの業務の見直しと新たな課題に取り組んでまいります。課題の一つは、学会員にとって有用な研鑽の機会を創造することです。リハビリテーション医学会等の関連団体との合同事業の推進により、学会独自の研修活動、学会共同の企画を、会員のニーズにあわせて進めたいと思います。忌憚なく、学会に期待する研修について、ニーズをたくさんお寄せください。学会では、調査委員会を立ち上げ、今年度もまた必要な基礎調査を進めてまいります。

課題の二つには、本学会が参与してきた脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育の具体的な教育支

援を具現化します。具体的には、研修企画自体を認定看護師の参与を得てすすめていくことを検討します。学ぶもの自らが学びたい企画にすることもまた必要かと思えます。日本看護協会の認定看護師制度の新たな構築にあわせて本学会も果たすべき役割を担ってまいります。

さらに、課題の三つには、本学会の学術的なエビデンスを創造していくために、学会誌への研究成果の集積と、学術大会の学術性の探究を進めてまいります。学会員がもつ豊かな技と実践力が育つような、研究的、実践的取組みもまた必要な段階にきています。

このように挙げて見るとこれまでも取り組んでいた課題ですが、大切なのはより質の高い学会活動に高めていくことと考えます。ともに学びあう、分かち合う、創りあげる学会へと進めることができれば、学会としての成長もまた見ることができるといえます。

今後、日本の高齢人口がさらに増し、看護や介護を、在宅で迎えていく人が増えていくことを見据えて、リハビリテーション看護を核にしている本学会が、人がよく生きるための医療・福祉の一翼を担う立場で、在宅医療にいかに関与できるか。こう考えると、学会の果たす役割はとても大きいです。さらなる発展のために、ともに進んでいただければ嬉しいです。皆様に手の届くような学会にしたいと思っています。

リハビリテーションマインドを培えることを大切に進んでいきましょう。よろしくお願いたします。



# 平成30年度通常総会・第30回学術大会・ 開催報告

平成30年11月23日・24日の両日、富山県国際会議場で日本リハビリテーション看護学会学術大会が、富山県リハビリテーション病院・こども支援センター中川 美都子看護部長を大会長として開催された。

テーマ『つなげ未来へ つなげ地域へ かがやけ看護の力』を軸に基調講演として日本赤十字豊田看護大学 学長 鎌倉やよい先生を始め、特別講演Ⅰ・Ⅱ、県民公開講座、ワークショップⅠ・Ⅱ、交流集会、シンポジウム、調査委員会企画「診療報酬改定の影響と対応」、ランチョンセミナー1～4（栄養・リハビリテーション看護実践能力ラダー）など興味深い内容が組み込まれていました。また、今回は、日本リハビリテーション看護学会の30周年記念講演として、長野保健医療大学 教授 中島 八十一先生に講演して頂き、日本リハビリテーション看護学会の今後の課題も示唆されました。



参加者は723名 口演35題・示説42題あり、優秀演題も表彰されました。通常総会、選挙も滞りなく円滑に運営されました。

1日目の夜に懇親会もあり、今回、日本リハビリテーション看護学会30周年記念もあり多くの来賓者からの祝辞を頂きました。今後の更なるリハ看護の発展に奮起しなければと思いつつ、多くの参加者と富山の特産、白えび、ホタルイカなど沢山の美味しい食物に舌鼓しつつ、親睦を図りました。富山県リハビリテーション病院・こども支援センターの皆さんのおもてなしも心地よく楽しい宴を過ごしました。



兵庫県立リハビリテーション中央病院 高濱 正子

## 平成30年度 NPO日本リハビリテーション看護学会 理事・監事選挙投票結果一覧表

### 理事 定数20名

	No	当選	氏 名	所 属
理事候補者	1	○	栗生田友子	獨協医科大学
	2	○	荒木 暁子	日本看護協会
	3	○	蟻田富士子	東京都リハビリテーション病院
	4	○	石川ふみよ	上智大学
	5	○	板倉 喜子	白山リハビリテーション病院
	6	○	市川 真	NTT東日本伊豆病院
	7	○	岩川 彰子	鶴巻温泉病院
	8	○	後迫 瑞恵	愛仁会リハビリテーション病院
	9	○	宇野みどり	伊予病院
	10	○	浦野妃路美	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
	11	○	金山萬紀子	誠愛リハビリテーション病院
	12	○	熊谷 恒子	東北公済病院
	13	○	佐藤 啓子	埼玉県総合リハビリテーションセンター
	14	○	佐藤 史	JCHO湯布院病院
	15	○	佐藤 泰子	青森新都心病院
	16	○	高濱 正子	兵庫県立リハビリテーション中央病院
	17	○	原 三紀子	東邦大学
	18	○	古館 郁子	いわてリハビリテーションセンター
	19	○	村中くるみ	広島市立リハビリテーション病院
	20	○	山本 恵子	九州看護福祉大学

### 監事 定数2名

	No	当選	氏 名	所 属
監事候補者	1	○	北代 直美	
	2	○	田村 玉美	入間総合科学大学

基調  
講演

## 「リハビリテーション看護学の展望」

日本赤十字豊田看護大学 学長 鎌倉 やよい

日本赤十字豊田看護大学学長である鎌倉やよい先生に「リハビリテーション看護学の展望」のテーマで基調講演を行って頂きました。

講演の内容はリハビリテーション看護の専門的な機能（専門的技術）として特に重要なことは、自立への動機づけ、どの段階でどのようなアプローチをし、その成果がどうであったのかである。

これからのリハビリテーション看護学を確立するには、看護ケアプログラムの方法論を体系化していくことである。そのためにリハビリテーション看護技術の「実践知から技術の標準化」できるようエビデンスを明らかにした看護アプローチの開発が重要である。

私たちが日々臨床現場で実践している常識と思われるリハビリテーション看護技術の一つひとつのエビデンスを探し、それをデータとして蓄積していくこと、それらをいかに言語化していくのか、それを構築していくことが今後のリハビリテーション看護学会の役割になるのであろうと話された。



JCHO湯布院病院 佐藤 史

30周  
記念  
講演日本リハビリテーション看護学会の  
今後30年に望むこと

長野保健医療大学 教授 中島 八十一



リハビリテーションにおいて、看護が専門性を発揮し、発展し、本学会が知名度を上げるためには、専門家受けする集団になることである。看護師の特有の看護技術を、誰がどのように伝承させていくかが重要である。看護師の得意なことは、生活の中の制限因子（生活の困りごと）に気づき、予測できることである。リハビリテーション看護を伝承させていくことができるのは、現場の看護師達である。臨床の現場で創意工夫、開発し、実践している看護技術について、エビデンス（科学的）とナラティブ（記述）を用いて、リハビリテーション看護のデータとして蓄積する必要がある。

どのような数字をリハビリテーション看護学会が握るのか、いくつかの重要な数字を持ち、学会として有益なビックデータを ENB として看護に活用する。

課題解決に向け、それを社会に向けて発信していくことが求められており、日本リハビリテーション看護学会としての今後の課題を示唆された講演であった。

兵庫県立リハビリテーション中央病院 高濱 正子



# 臨時総会

平成30年度 臨時総会を平成31年2月17日に実施いたしました。

- ・議案1 事務局機能の委託と事務局の移転 小平事務所から業務委託へ
- ・議案2 議案1に伴う定款の一部改正(案)委託に伴う変更
- ・議案3 平成30年度補正予算(案)委託に伴う支出の見直し

お示しした議案1、2、3についてすべて承認され、これにより改正後の定款に差し替えます。

詳細はホームページをご覧ください。

## 【平成30年 活動予算書】

第13号様式(法第28条関係)

平成30年度 活動予算書  
平成30年10月1日～平成31年9月30日まで  
特定営利活動法人 日本リハビリテーション看護学会  
(単位:円)

通常総会決定版

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費			
(1)受取入会費	500,000		
(2)正会費受取会費	10,000,000	10,500,000	
2 事業収益			
(1)調査・研究他 学術大会の開催事業収益	9,771,800		
(2)研究会・講演会の開催事業収益	950,000	10,721,800	
3 その他収益			
(1)受取利息	10,000		
(2)雑収入	0	10,000	
経常収益計			21,231,800
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
①給与手当	0	0	
(2)調査・研究他 学術大会開催運営費			
①学術大会運営費			
・会場費・総会費	2,840,000		
・印刷費	3,240,000		
・通信費	300,000		
・事務用品費			
・食料消耗品	230,000		
・旅費交通費	280,000		
・接待交通費	10,000		
・基調講演謝金	480,000		
・業務委託費	1,870,000		
・租税公租	0		
・雑費	80,000	9,330,000	
②学術推進検討費			
・学術誌編集費	1,700,000		
・教育活動検討費	0	1,700,000	
③教育研修費			
・研修会費	850,000	850,000	
④広報活動費			
・ニューズレター発行費	400,000		
・普及開発費	110,000	510,000	
事業費計		12,390,000	
2 管理費			
(1)人件費			
①役員報酬			
②事務人件費	5,200,000		
③法定福利費	800,000	6,000,000	
(2)その他事務局管理費			
①役員理事会議費	1,500,000		
②通信費	550,000		
③事務用品費	450,000		
④事務機器費	280,000		
⑤食料・光熱費	1,145,000		
⑥交際費	50,000		
⑦事務局什器備品・修繕費	30,000		
⑧H P維持管理費	200,000		
⑨事務局運営費	85,000		
⑩租税公租	0		
⑪監査報酬費	850,000		
⑫減価償却費	0		
⑬旅費交通費	3,000		
⑭支払手数料	33,000		
⑮雑損失	50,000		
⑯退職給付積立挿入	0	5,326,000	
管理費計		11,326,000	
経常費用計			23,716,000
当期経常増減額			-2,484,200
IV 経常外費用			
1 30周年記念祝賀会			
(1)運営費			
①開催費	160,000		
②旅費交通費	743,000		
③印刷費	4,500		
④基調講演謝金	70,000	977,500	
経常外費用計		977,500	917,500
税引前当期正味財産増減額			-3,461,700
法人税、住民税及び事業税			0
前期繰越正味財産額			22,882,082
次期繰越正味財産額			19,360,382

## 【平成30年 活動予算書補正】

第13号様式(法第28条関係)

平成30年度 活動予算書  
平成30年10月1日～平成31年9月30日まで  
特定営利活動法人 日本リハビリテーション看護学会  
(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費			
(1)受取入会費	500,000		
(2)正会費受取会費	10,000,000	10,500,000	
2 事業収益			
(1)調査・研究他 学術大会の開催事業収益	9,771,800		
(2)研究会・講演会の開催事業収益	950,000	10,721,800	
3 その他収益			
(1)受取利息	10,000		
(2)雑収入	0	10,000	
経常収益計			21,231,800
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
①給与手当	0	0	
(2)調査・研究他 学術大会開催運営費			
①学術大会運営費			
・会場費・総会費	2,840,000		
・印刷費	3,240,000		
・通信費	300,000		
・事務用品費			
・食料消耗品	230,000		
・旅費交通費	280,000		
・接待交通費	10,000		
・基調講演謝金	480,000		
・業務委託費	1,870,000		
・租税公租	0		
・雑費	80,000	9,330,000	
②学術推進検討費			
・学術誌編集費	1,700,000		
・教育活動検討費	0	1,700,000	
③教育研修費			
・研修会費	850,000	850,000	
④広報活動費			
・ニューズレター発行費	400,000		
・普及開発費	110,000	510,000	
事業費計		12,390,000	
2 管理費			
(1)人件費			
①役員報酬	0		
②事務人件費	2,600,000		
③法定福利費	400,000	3,000,000	
(2)その他事務局管理費			
①役員理事会議費	1,500,000		
②通信費	550,000		
③事務用品費	1,000,000		
④事務機器費	0		
⑤食料・光熱費	572,500		
⑥交際費	0		
⑦事務局什器備品・修繕費	0		
⑧H P維持管理費	580,000		
⑨事務局運営費	42,500		
⑩租税公租	0		
⑪監査報酬費	425,000		
⑫減価償却費	0		
⑬旅費交通費	0		
⑭支払手数料	0		
⑮雑損失	50,000		
⑯退職給付積立挿入	0	0	
⑰事務代行業務委託費	2,420,000	7,140,000	
管理費計		10,140,000	
経常費用計			22,530,000
当期経常増減額			-1,298,200
計上外収益計			0
IV 経常外費用			
1 30周年記念祝賀会			
(1)運営費			
①開催費	160,000		
②旅費交通費	743,000		
③印刷費	4,500		
④基調講演謝金	70,000	977,500	
2 管理費			
(1)事務局撤去費	651,000	651,000	
経常外費用計		1,628,500	1,628,500
税引前当期正味財産増減額			-2,926,700
法人税、住民税及び事業税			0
前期繰越正味財産額			22,882,082
次期繰越正味財産額			19,895,382

## 図書紹介

# 脳卒中をやっつける!

吉村 紳一 著

著者は脳神経外科学教授で、〈脳卒中は予防が可能である〉と、脳の専門家が言うので説得力がある。

厚生労働省調査によると要介護5は脳卒中が段突トップとなっており、寝たきりあるいは介護を必要とすることに繋がりやすい事がわかる。著者がシンプルにまとめた事を守っていくことで脳卒中の因子、それを避けることで発症の確立を下げるのできるのである。介護を受けたり寝たきりになったりせず日常生活を送れる「健康寿命」を伸ばすことで、人生を有意義に送りたいものである。

本書は、5章で成り立っている。予防から発見されて治療、手術までの一連の流れが分かり易くかかっている。1章は、脳卒中にはどのような種類があり、どのような症状がでるのか、2章では自分がどのような状態なのか検査値、血管などを知り、3章は危険因子を（糖尿病、高血圧、高コレステロール、喫煙、大量の飲酒等）改善し4章は薬剤治療の必要性を5章は、手術に関わることである。どの章からも読み始められ、自分が一番知りたい所から始めてもいい。文書のみではなく、要所々にエピソード漫画で説明を取り入れられ、医学的な本は固く難しいというイメージから、気軽に読者が手に取り、読みやすく、書かれている。また、専門用語も理解しやすいよう丁寧に説明がされている。

脳卒中の基本的な部分が押さえてあるため、新人看護師にも基本的な事を知ってほしい内容が組み込まれており、自己学習の手助けになる。

回復期病棟では、脳血管障害患者を対象に在宅復帰に向け支援を行っているが、機能回復は勿論の事、再発予防も重要になってくる。脳卒中の要因にもなる生活習慣病の予防にはコツがあると、著者は述べている。患者さんのみならず、家族の協力を得る事が必要であり、このことは病棟でも痛感する所である。患者さん自身、家族も一緒に取り組んでほしい内容が盛り込んであり、また、単身者向けにも食生活のポイントが書かれ、各病院で生活指導を行っていると思うが、そのような時に参考となる。

病院の患者さん・家族用図書室や待合などの目に触れる場所に置いて頂き、脳卒中にならない予防・脳卒中治療の理解に役立つ一冊であり、多くの読者に読んで頂きたい書である。

兵庫県立リハビリテーション中央病院 高濱 正子





# 施設紹介

## 医療法人社団脳健会 仙台リハビリテーション病院

辻 美香子

仙台リハビリテーション病院は、平成20年4月に宮城県で初めて回復期リハビリ専門病院として開院しました。病床数は82床を有しています。“繋ぐ・つながる”の精神を大切に、それぞれの専門職者が日々の業務に取り組んでいます。病院名に仙台という地名が付いていますが、実際は仙台市北部に隣接する富谷市成田地区に位置し、周囲は閑静な住宅街で公園や学校が整備された緑豊かな環境下にあります。そのためリハビリは病院敷地内にとどまらず、公共交通機関の活用や公道、公園、地域の商店などをフル活用し個別のニーズに即したプランで、リハビリを行うには絶好の環境でもあります。関連施設には脳神経外科の急性期病院があり、脳卒中の急性期から回復期・生活期に至るまでの一貫したリハビリ医療を提供しています。



患者は関連病院からだけでなく、県内急性期病院からの紹介を受け、ADL・IADLのみならず個々の患者が戻る地域環境に合わせて、農作業や車の運転、就労支援（高次脳機能障害）を含む社会復帰に必要な機能の獲得など、多岐にわたるニーズに対応しています。そのため医療の知識と生活視点で患者を捉えるリハビリ看護師は退院支援、調整を重要視し質の向上を図る取り組みをしています。その一つとして今年度は生活視点でのスキル獲得と強化を目的に、地域の訪問看護ステーションで実践研修を行うことが決定しています。退院後の生活を安心して継続できるよう、入院中は複数回の外泊訓練はもちろん、家族には病院に宿泊をしていただき、昼夜に必要な介護訓練指導が実施されます。また退院後の再発予防や悪化防止のために月1回、家族向けの介護教室の開催や地域包括支援センターにおいては、住民を対象に「健康体操」を提供するなど好評を得ています。しかしながら遠方への転帰患者に対しては退院後のフォローが

難しい現状もあり、それぞれの地域との施設間、多職種間連携の構築、強化も進めているところです。「病院完結型」医療から「地域完結型」へとシフトしたことで、これまで以上に様々な人や地域との“つながり”が重要になってきました。

超高齢化が加速する中、回復期リハビリ病院への社会の期待が大きいことを自覚し、リハビリ専門病院としての役割を發揮しなければならないと強く感じます。

今後も個々のニーズに対応するために、どこの誰と、どのように“つながり”を持ち“繋ぐ”か、を考え、その精神を大切にしながら皆で前に進んでいこうと思っています。



### 編集後記

皆様の職場では、新しい職員を迎え忙しくされていることと思います。この度、事務局長が定年退職される時に、お花をお渡ししたところ、落合名誉会長が活けられた写真が送られてきました。懐かしく、また、名誉会長のリハビリテーション看護に対する思いを引き継ぎ、これからも、精進していきたいと思いました。

広島市立リハビリテーション病院 村中 くるみ